



**保育の持続可能な発展を目指し、地域社会・子ども達・職員の
ステークホルダーを捉え、長時間の時間軸で保育を考え実現化していきます。**

「子ども達に幸せの種をまく保育」を、自己肯定型保育(生まれてきてよかった、やればできる...)や自己有用型保育(認められて、世の中の人に役だつ人...)を取り入れて行きます。子ども達が夢を持ち希望に翼を生えて羽ばたいて育っていくよう保育者が支援します

**現場・日常活動(実践): 保育士の心得、園児の接し方、身だしなみ、公平性の規範を守って
保育目標**

「丈夫な身体と豊かな心を育てる」

1. 個性豊かな子ども
2. 情緒豊かな子ども
3. 思いやりのある子ども
4. 何事にも挑戦できる子ども
5. 主体性・自主性のある子ども
6. 自分の意思をはっきり伝えられる子ども
7. あいさつができる子ども



保育方針(自己肯定型保育)

保育の基本方針は「保育所保育指針」に依拠した上で職員は、子どもや家庭に対してわけへだてなく保育を行うこと、そして、人権を尊重しプライバシーを保護することを基本原則として保育に臨みます。さらに、児重の最善の利益を願うため職員は、子どもの心を大切に、常に子どもの視点に立って接していきなから、子どものもてる可能性を、子ども自身の力で開花させていく保育の実践に全力を注ぎます。そのため、職員は次に掲げる7つの視点を持ち、よりよい保育のために日々努力研鑽を行っていきます。①子どもをひとりの人間、人格者として認める②子どもの立場・視点に立って物事を考え共感できる③子どもの自尊心を傷つけたり、見下したりしなく共に成長しようとする前向きな姿勢④大人のものさしで善悪の判断をしない⑤明るく優しいおおらかな心⑥子どもの心をよく理解し、子どもの言葉に耳を傾ける

管理 顧客満足度

アカウンタビリティ(各責任者の役割)の開示
現場第一主義(草の根保育)

地域密着型
費用対効果型

コミュニケーション(全体ベクトルの一致、活力の醸成、それぞれの'思い'や'考え'の伝達)
に配慮したPDCAサイクルを展開する。



中期経営計画

年度事業計画

子ども子育て支援新制度にのっとった保育園を目指す
女性の社会進出を手助けする育休制度の充実と、両立支援態勢を更に進める。
保育の質向上を研修計画に従い目指す。

行動計画策定

地域と連携した保育を目指し、双子園の連携を地域に展開する。
大きな行事は法人としてまとまった形で地域・保護者へ奉仕する。
社会貢献活動として多世代間交流を目指す。
働きやすい環境と高処遇環境のよこはまグッドバランス賞取得を契機に更に向上を目指す。



財務計画策定 事業活動支出の人件費の占める割合80%をキープする。(経営形態別費用構造)
スタッフ処遇を最善に行えるよう財務計画を目指す。最大の投資は賃金・賞与処遇である。

経営戦略

「安全保育」こそ経営の基盤であり、守り続ける。
「保護者の声」に徹底してこだわり続ける
地域の信頼を基に「地域社会」と共に歩み続ける。
常に「挑戦」し続ける。
「関心」を持って議論し、「自信」を持って 決定し、「確信」を持って実行する。
人を活かし、チームを「力」にし、強い 業界唯一の法人を目指す。
当事者意識と危機管理意識のもと法人倫理、安全意識、法令順守をもって行動する。
子どもへの保育成果は、職員へ最善の利益をもたらす経営処遇戦略とする。



経営理念・ミッション

私の保育園は、社会福祉事業法第3条 および第5条にある「基本理念」「地域等への配慮」「事業経営の準則」に基づき「子どもの健やかな成長を援助する」ことを基本理念とし下記ミッションを達成します。

- ①「安全保育」と「信頼」
- ②「価値ある保育時間とサービス」を創造
- ③「いつも地域に密着した身近な存在」
- ④「夢」と「感動」を届けます

